

<b>【学校教育目標】</b>	<b>【本年度の重点目標】</b>
確かな学力と豊かな心を持ち、地域を愛するたくましい生徒の育成	○魅力ある学校づくり(不登校生10名以下) ○学ぶ意欲の向上

自己評価は4段階で評価しています。(4: そう思う 3: どちらかといえばそう思う 2: どちらかというと思わない 1: そう思わない) ※数値(上段:12月 下段:7月)

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
学習指導	授業内容の改善	日常的に学力向上を意識しながら教科の授業に取り組んでいるか 〈結果〉 年間を通じて計画的に校内研修を実施し、一人2回の授業研修や生徒の授業アンケートをもとにした授業改善を行うことができた。	3.9 ↑ 3.7 授業のめあてやまとめだけでなく、板書計画も意識されていると思いました。 すべての教師が学力向上を常に意識し、授業改善に取り組んでいる。高い自己評価に表れている。	○3年間の学力向上推進拠点校事業の終了後、その成果と課題をもとに、計画的な主題研を推進する。そのために3年間の学力向上に係る改善策となる学力向上プランをもとにし、研究推進委員会及び学力向上検証委員会を中心とした各種委員会が連携・協働し、PDCAサイクルに基づく具体的な取組を実行していく。 ○それぞれの委員会が年間計画を立案し、着実に実施・評価・改善を図っていく。特に、学力向上検証改善サイクルのロードマップをもとにし、DOの重点化と各取り組みの精選化を図る。 ○定期考査等における思考力を問う問題の質の向上のための校内研修を実施する。 ○学力のCD層の生徒に対し、鍛ほめの方途を取り入れたそれぞれの個の実態に応じたマンツーマンの支援をもとにした自学ノートの取組を推進し、CD層の家庭学習の習慣化を目指す。
		モジュール学習で10分間生徒がしっかりと取り組めるように指導しているか 〈結果〉 年度当初に目的を共有し、年度途中にも取組評価を共有したことで、全校生徒がしっかりと取り組むことができている。次年度に向けたより効果のある取組につなげる必要がある。	3.3 ↑ 3.4 モジュールの成果が生徒の学力にどのようになっているか明らかにすることが、生徒と同様に教師の意欲の向上ややりがいにつながると思う。	
学習指導	授業内容の改善	授業で理由や根拠をもとに自分の考えを表現する(かく)活動があるか 〈結果〉 全教科で授業のグランドデザインをもとに思考活動(かく活動)の充実を図る授業に取り組んだ。	3.2 ↑ 3.1 授業のグランドデザインや書く活動などの校内研修が進んでいると思う。 次年度も書く活動を取り入れた授業の充実に期待します。	○学校通信やホームページ、すぐメールを活用し、保護者や地域へ学校の様子をさらに分かりやすい情報発信に努め、開かれた学校づくりを推進する。 ○学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりのために、各種アンケートを分析し、課題の明確化と共有化を図る。また、学校行事や学習参観を積極的に参加を呼びかけ、多くの地域・保護者から生徒の活動を評価する機会を増やす。 ○小中で連携したノーメディア週間の推進及び啓発のためのお便りを配付するなど、家庭学習に対する保護者の意識高揚を図る。
		授業では一単位時間の授業の流れ(「めあて」「見通し」「思考活動」「まとめ」「振り返り」を行っているか 〈結果〉 一人2回の授業研修や授業参観週間を通して、全教員が意識して授業改善に取り組むことができた。	3.3 ↑ 3.3 小学校でも自分の考えを表現できるように各活動を取り入れている。小学校の取組が中学校で生かされているのか検証する必要がある。	
学習指導	家庭学習の習慣化	各教科で課題(特に週末)を与えることができたか 〈結果〉 各学年で教科の課題内容の量を調整するなど、生徒の状況に応じた課題を与えるなどの工夫した。	2.7 ↑ 3.3 学力四分位のD層に対する定期考査の取組は生徒の学習理解ややる気につながると思う。 数値が下がっている原因は何なのか。課題を与えなくても生徒自らが取り組んでいることが分かった。	○学校通信やホームページ、すぐメールを活用し、保護者や地域へ学校の様子をさらに分かりやすい情報発信に努め、開かれた学校づくりを推進する。 ○学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりのために、各種アンケートを分析し、課題の明確化と共有化を図る。また、学校行事や学習参観を積極的に参加を呼びかけ、多くの地域・保護者から生徒の活動を評価する機会を増やす。 ○小中で連携したノーメディア週間の推進及び啓発のためのお便りを配付するなど、家庭学習に対する保護者の意識高揚を図る。
		家庭学習の方法や取り組み方、家庭学習に向かう姿勢などを指導したか 〈結果〉 考査前学習計画表に保護者からのコメント欄を設けたり、考査前には小学校と連携したノーメディアチャレンジ週間を設定するなど家庭と連携した取組をおこなった。	3.0 ↑ 3.3 ノーメディアの結果を張り出したり、みんなで取り組もうとしたりするところがよいと思う。今後も家庭学習の充実に力を入れてほしい。 小学校でも6年生が家庭学習に力を入れているが、先の見通しを持ち計画的に学習する習慣を身に付けることが大切である。	
学習指導	総合所見	3年間の学力向上推進拠点校事業を経験し、教職員の授業技術の向上と授業改善に対する意欲の向上がみられる。研究推進委員会・学力向上検証委員会を中心とした校内研修の充実、授業研修、授業参観週間などを通して、職員の指導力の向上の結果があらわれてきた。今後も、主幹教諭をはじめとすミドルリーダーや若手教員の人材育成を意図した組織づくりを通して、学校教育目標の具現化に向けた協働体制を整えていく。また、教育課程のカリキュラムマネジメントを通して、教育活動の一貫性や関連化を図るようになる。さらには、新たな研究主題のもと協働体制作りを組織的にを行い、より効果のある取組を展開していく。		

生徒指導	<p>落ち着いた学校づくり</p> <p>生徒がチャイム1分前着席を守る指導を行っているか</p> <p>〈結果〉 全校で「学習規律のスタンダード」をもとにした授業への構えを振り返る指導を行い、生徒のほとんどが守ることができている。</p>	3.6 ↑ 3.5	日々、当たり前チャイム着席が守られており、指導の徹底がなされている結果だと思う。発言をする子に体を向けたり、熱心に板書したりしている様子が見えた。	○積極的な生徒指導の視点から各学校行事や授業の流れを見直し、PDCAサイクルに基づいた生徒の自己指導能力を育成する。 ○生徒会活動と連動した学習規律のスタンダードの徹底週間を実施する
	<p>授業規律について指導を行っているか</p> <p>〈結果〉 全職員での指導はもとより、生徒会活動と連動した生徒自らの授業態度を見直す取組を行った結果、落ち着いた環境で授業をすることができている。自分の考えを表現する指導の徹底が不十分である。</p>	3.2 ↑ 2.9	入学説明会で中学生の授業見学をしたが、非常に落ち着いた授業に参加している様子が分かった。	○学期に1回のいじめに特化したアンケートの実施をはじめ、日常的にいじめや問題行動防止に向けた意識の高揚を図る。 ○積極的にいじめを認知し、継続的に対象生徒のみとりを行う。
生徒指導	<p>いじめについて未然防止、早期対応を行っているか</p> <p>〈結果〉 いじめに関する校内研修を実施し、いじめの早期発見に努めた。またいじめ事案が発生した場合、学年職員、生徒指導委員会で組織的な対応をおこなった。</p>	3.6 ↑ 3.4	いじめに対する未然防止や早期発見・早期対応が組織的に進んでいることがよくわかった。今後も、早期発見、早期対応に努めてほしい。	○学校内外において、生徒の挨拶などの規範意識の向上にはさらなる評価を得られた。今後は、積極的な生徒指導のさらなる推進を図り、発達段階に応じた生徒の居場所作りや生徒同士の絆作りの推進を図る。 ○新規の不登校生徒をつくらぬよう、学校に行きたくなくなる教育活動を行うとともに、保護者のアクション3をもとにした家庭との連携を強化する。
	<p>生徒の姿を具体的にほめているか</p> <p>〈結果〉 生徒の具体的な努力の過程やその成果をみとり、評価・ほめることを通して努力できる自分や、やればできる自分への手応えを感じさせ、さらなる意欲を引き出すことが必要である。</p>	3.4 ↑ 3.5	生徒が伸び伸びと学校生活を送ることができている様子が見られる。教師が生徒を認め適切に評価（ほめる）していることが分かる。具体的な場面で適切にほめることにより、自信とやる気を育ててほしい。	
総合見	<p>いじめや差別に繋がる日頃の言葉遣いに注意が必要である。生徒同士の些細なトラブルを自分たちで解決できる力や日頃からの関係づくりを意図的に行う必要がある。担任は計画的、また日頃からの教育相談や生活ノートによる生徒とのやり取りをきめ細かに行うなど、生徒の様子に気を配り、信頼関係づくりをして行く必要がある。また、SNSに関するトラブルの増加から、積極的、計画的な指導が喫緊な課題となっている。今後は生徒同士の信頼関係づくりを積極的に行っていくとともに、生徒が自ら規範を意識し、主体的に規範を守ろうとする指導を行っていく。また、保護者への啓発も見通しをもって周知、報告していきたい。</p>			
職員研修	<p>校内研修で学んだことを日常の教育実践に生かしているか</p> <p>〈結果〉 主題研究を中心に、計画的な校内研修を行い、異教科でのグループ研修や全職員で授業改善に取り組むことができた。</p>	3.4 ↑ 3.2	小学校の教師として、小中で連携した校内研修や授業研修をしたいと思う。	○各種委員会におけるOJTによる人材育成をおこない、次世代のリーダーを積極的に生み出していく。 ○そのための校内研修を工夫し、自主的な研修を計画的に実施する。 ○授業改善、家庭学習やモジュール、補充学習の充実による学力向上の取組をPDCAサイクルに従って実行する。
	<p>全教師が年1回の授業研究に取り組めたか。</p> <p>〈結果〉 一人2実践の研究授業を行い、授業後の協議会や校内研修で振り返ることができた。また、その反省を生かしたさらなる授業改善のサイクルが定着しつつある。</p>	3.8 ↑ 3.4	研修内容が職員に浸透していることが分かった。高い自己評価から、全教師に授業改善のサイクルが定着していることが分かる。是非とも継続して力を入れてほしい。	
職員研修	<p>センター研等へ積極的に参加することができたか</p> <p>〈結果〉 県教育センターでの集合研修やオンライン研修で学んだ内容をそれぞれの係や組織での運営に活用する職員が増えた。</p>	3.1 ↑ 2.7	今年度も一人2回の授業研修において、全員が指導主事による指導を受けたり、学期に1回の授業参観週間を設定し、授業改善の日常化を図るようにしていることが分かった。今後は一般研修においても職員に必要な研修を実施することが大切だ。	○一人1講座以上の教育センターのキャリアアップ研修の申し込みを行う。
	総合見	<p>本校は年齢構成が若く、これからの教育界を担っていく教員が多くなる。そのため、実践的授業力・生徒指導力をつける校内外の研修や、職場でのOJTによる教師力向上、新たなミドルリーダーの育成を計画的に行っていく必要がある。人材育成のためには、仕事を任せただけの指導体制の充実、参加・参画意識の向上、自発的な研修の奨励を促す必要がある。また、校務分掌やライフステージに応じた校外での各種研修への受講・参加を促し、その研修内容の還元学習会等を通して組織的・協働的实践につなげなければならない。</p>		